

神戸のこと 手当り次第

淀川長治

え・中 西 勝



昨日、帝国ホテルの新館のロビーに行つてびっくりした。というのもこのころは、なにかというとホテル・オークラに催しものが多い、なんとはなしに帝国ホテルにごぶさたしていたからです。

それもほんの二カ月くらい、その二カ月が、三日見ぬまの花の山……と言ひびっくりであった。というのは、まるでグランド・ステーションながらに、もう腰かける椅子どころか、たてこんだその人の波。アメリカ人、イギリス人、フランス人、サリをまとつた印度婦人。ケースを抱えてうろちよろする銀髪の老人。あざやかな胸のししゅうバツヂの赤い色、紺の服、スコッチ帽、半ズボン、そんな青少年団の一組。これはもうキャロル・リード監督の映画の一

場面の、その色彩美しい一瞬を見る思いであった。そんな中にいろんな用件で出入りし、または泊りこんでいるのであろうその日本人も堂々として、けっして外人連にいささかも見劣りしない。日本も変ったものである。

私が久しぶりでここを訪れたのは、あの懐しいアメリカの喜劇映画スタアのハロルド・ロイドに逢うためであった。

私は子供のころ二階の物置きで異様なものを、大きな木製の箱の中から引つ張りだしたことを……ふと思ひ出した。それは全身を白いビーズと黒いビーズで飾りたてた純白絹製の西洋婦人の夜会服装であった。そしてそれが、むかし私の家にいた芸者の衣裳だと聞かされて二度びつくりした。あとでわかったことだが、神戸も鹿鳴館時代にならつて、居留地では盛んに舞踊会が催されたのだそうである。もちろんお素人しゅうの紳士しゅう女が集つたのであるが、そんな宴席にも芸者しゅうもサーヴィス係りの一役を頂いて花代をつけられ呼ばれたのであろう。明治二〇年（一八八七年）のころでもちろん私はそんなころは生れてゐるわけではない。まだ私はこの世に、そのころは空気がらいで液体にもなっていないときである。西洋人が外を通ると「異人さん」と珍らしがって家の中からとびだしてこわごわ眺めたころ。大正五、六年（一九一七年）のころ。兵庫の能福寺の大仏をよく西洋人が見物に来た。

あのミュージカルになつた「王様と私」。もとは女の人が自分の体験記を小説にした「アンナとシャム王」、あの中に出てくる西洋婦人そつくりの、すその長い、やわらかく大きくそのすその開いたスカート、柄の長いパラソル。そんな西洋婦人がひげの赤い西洋紳士と手を組んで、能福寺にやってくる。たいがい十人くらいの子供が鼻をたらし、紺がすりの着物の短かいすそから両足をニョキリと出して「異人さんやア」と、その西洋人のあとに金魚のウンコのように続く。私もその一人であつた。ポカーンとして真正面から西洋人の青い目を見ていると、黒衣に黒ばかまの通訳の若い坊さんが、うやうやしく右に手を挙げ左に手を挙げ、なにやら説明し、そのたび



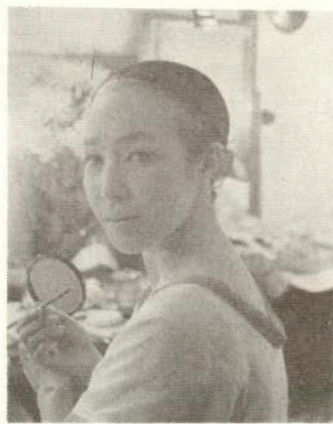
に西洋人は右を見あげ左を見あげ、いかにもと首を大きくたてに振ってうなづくのであった。さて大仏正面に立った婦人が手吊げから財布をとりだし、おさいせんを投げ入れるため小銭を出そうとした瞬間、チャラチャラチャリン、みごとにお金を足下の石だたみの上にバラまいた。私はこれは気の毒とばかり、あちらこちらに散らばった銀貨をあわてて拾い集め、いそいでその西洋人に差し出した瞬間、その西洋人の目が見るもこわい顔つきが、たちまち、こぼれるばかりの可愛い顔に変わって、なにやらキヤラキヤラコロコロと叫んだかと思うと、私を突如抱きしめた。私はびっくりし、ポカんとしながらも、さては日本の子供が落したゼニを盗んで逃げると思ったのだな、それがそうではなかったのでビックリして喜こんでいるんだな、そのころ五ツ六ツの私にもそれと気がつき、いばって笑って大げさにその銀貨数枚をそのやわらかい西洋婦人の手に押しつけた。するとその西洋婦人はまたもキヤロコロ叫んで急いで私の頭を撫でながらその銀貨の一枚を私の手の中に押しこんだのであった。それをまたも私は押し返して「ソナン、イランデュー」と逃げたのを……いま、ふと思い出した。

ロイドのお話をしようと思ったがもう紙数がない。そのむかし新開地の錦座（にしきざ）の絵看板いっばいに、あのロイドがロイドめがねとストロオ・ハットで明るく笑っていたお正月のニコニコ大会。そのロイドといまになって逢って語って抱き合って、そのロイドがことし七〇歳ときくとヘーッとも一度そのピンク色の顔を覗きこんでも一度しっかとその彼の三本指の右手とキューッと握手した彼は撮影中爆発事故で右手の指を二本失った。彼はその後、何回も映画に出たが一度もその右手のあとを見破らせてはいない。あの歳になって「ウェスト・サイド物語」を三回も見ており「アラビアのロレンス」を激賞する。喜劇役者ではルシル・ボール一人のみほめたたえアメリカ映画にほんものの喜劇役者のいなくなったことを嘆いていた。男の喜劇役者として名をあげたのはエド・ウインひとり。ボブ・ホープは落語家だといった。

（映画評論家）

宿六談義

藤間 紫



神戸国際会館の楽屋にて

私の高校生になる娘、小学六年のわんぱくざかりの男の子も、大変好きなものだから、神戸肉のカタマリを東京へ送ってやろうと思って、元町の肉屋さんで頼んだのですが、残念ながら送ることができなくて、美味しい肉を食べそこねました。私は夏になると朝からピフテキと野菜を食べるのが好きで、その上に牛乳をガブガブ飲むものですから、「レスラーと一緒に朝食じゃないの」とみんながあきれられているぐらいです

神戸へ来て、皆さんに聞かれたことが、TVの「うちの宿六」のことでした。子供のいらっしやらないご家庭で、特に評判がいいようです。増山氏の尾上九朗右門さんは、子供の頃からおつきあいので気心が知れているものですからやりやすく、私の本当の宿六さんである主人（藤間勘十郎さん）よりも仕事の都合で余計に顔合せしているぐらいです。セリフなんかも自然に入ってしまうんです。この番組で、家庭にはいつも笑いがあるということが大切だと思いました。

主人は舞台では、舞踊家として大変面白い人なので主人が舞台につとめているときは、一番、気を使います。

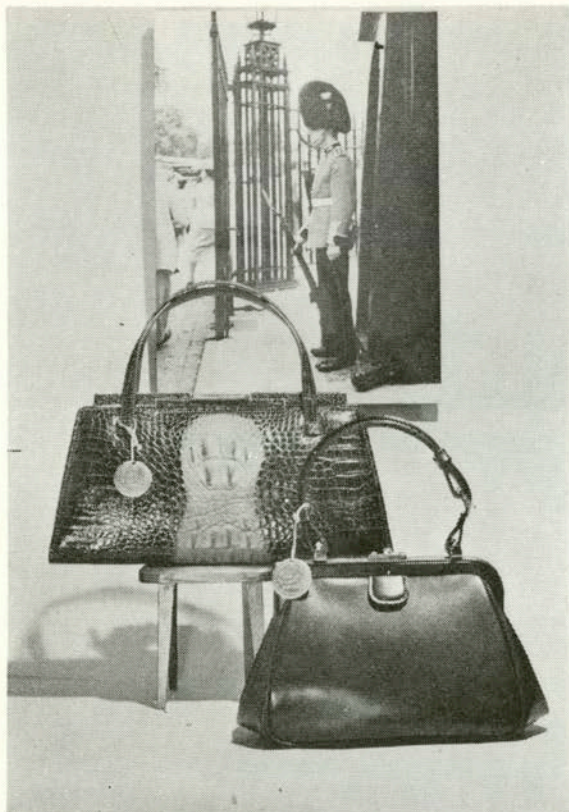
舞台で、主人が「嫌だ」と感じている時には、すぐに察してあげるといふふうに、芸術家のもつ細やかな感情の波を、受けとめる心づかいだけはしている積りです。

男の人には、それなりに人に言えない苦しみがあるでしょう。そんないやなことをふせぐことさえできたならお料理がまずいとかなんとか言ったこまかいことはあまり言わないんです。何がいかどんなことがいやなのかわかれば、とてもあつかいやすい主人です。小さい時から私は、先生としてつかえていきましたので、そんな感情の起伏もわりあいと簡単に受けとめられるのです。舞台のことを離れると、テレビの増山氏を地で行くようなこともしばしば……。

先日と一緒に出かけたところ、石にけつまずいて商店のウインドをこわしてしまったり。あわてて私は平身低頭して、おわびをして引返してくると主人は手に何かいっばいつかんでいるのです。ウインドでひっくりかえって起きあがった時に豆電球をつかめるだけつかんで引返して来たらしいのです。「私もとうとう罪を犯した」とニヤニヤしているのですから、ほんとに困った宿六です。

デパートへ行くと主人は Teppan まで登り、順々に一階ずつ降りて来るのがクセで、アクセサリーとかこまやかなものはちゃんとさがして来てくれます。私はデパートは大嫌い。そのくせ雑貨用品のナベとかザルとか食料品を買うのは好きなんです。テレビの「うちの宿六」を地で見ているようなものですね。

(談)



特 選
 ハンドバック
 専門の店

シラサ

元町2丁目・㊦0813

X'mas Sale

ネクタイとマフラーが
 X'マス・プレゼントの花形です



ネクタイの

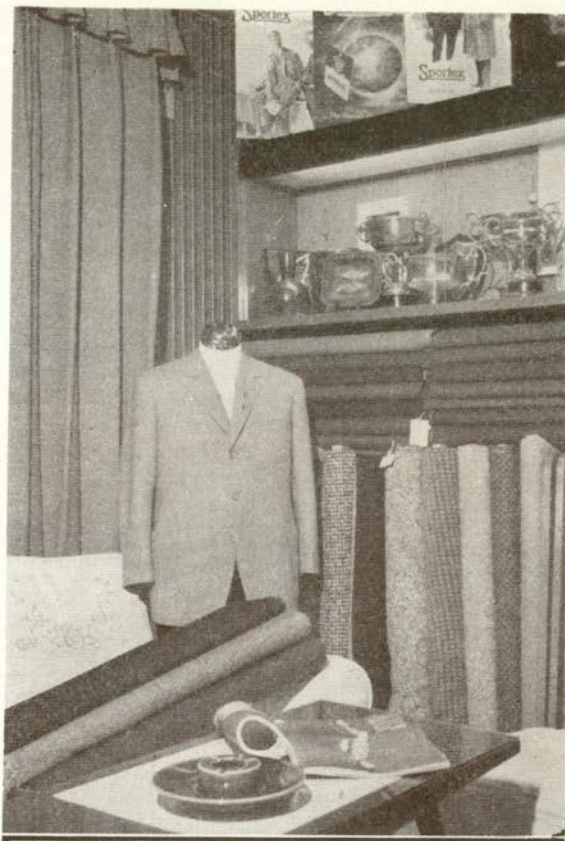
元町バザー

神戸・元町



毛皮店

三宮・国際会館1階
TEL 22 3327



ご贈答にお歳暮にどうぞ

直輸入羅紗専門店・紳士服・婦人服

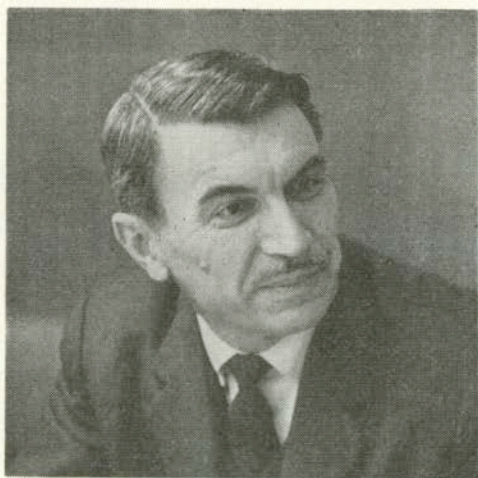
シマキ洋服店

神戸店 生田神社東門筋 ③7950・8055 ③92597
大阪店 北区梅ヶ枝町92ヤノシゲビル1階 (362)9515

チョコレイトから 生れた男

バレンタイン・F・モロゾフ氏を訪ねて

陳 舜 臣



・チョコレイトに情熱をかたむけるモロゾフ氏

湯川博士は寢床のなかの思索で、むずかしい理論のヒントを思いついたという。私の仲間にも、ベッドのなかでプロットを考えつき、とびおきてメモをしておくという作家がいる。

コスモポリタン製菓のヴァレンタイン・F・モロゾフ氏も、夜中、突然ベッドから抜け出して、

「ふむ、この味はどうだろう……」

と、即座にチョコレイトの新しい調査を試みることもある。常住坐臥、いつもチョコレイトのことが念頭から離れないのだ。

モロゾフ氏は帝政ロシア時代、ヴォルガのほとりに生まれた。六才のとき、革命によって、家族とともに国外に亡命した。母国での思い出は、むろんかすんだものになさくないだろう。亡命先はまずハルビン。赤色政権が潰れて、祖国に復帰できる日はあと二年、あと一年と待っていたが、またたくうちに五年たってしまった。それか

ら、モロゾフ家はアメリカへ渡った。今でもそうだが、サンフランシスコは日系露人のセンターである。氏が十四才のとき、一家は日本に移住することになった。シャトルから横浜にむかう船のなかで、関東大震災のニュースをきいた。

氏は横浜のセント・ジョゼフ学院で学んだが、二年後一家とともに神戸に移った。

トリア・ロードに、戦災で焼失したが、むかしプロテスタントの教会があった。かわった建物だから、おぼえておられる方も多いだろう。そのむかひに「モロゾフ製菓」が発足したのが一九二六年、つまり大正十五年（昭和元年）だった。

十六才のモロゾフ少年は、その工場でチョコレートづくりを習った。以来、氏はチョコレートとは切っても切れぬ縁を結び、夢寝にもそれを忘れないようになったのだ。

モロゾフ製菓は、はじめモロゾフ家の事業だったが、のちに株式組織となり、株の過半数はモロゾフ家から離れた。日中事変の最中のことである。モロゾフ氏は意を決して独立することになり、「コスモポリタン製菓」を創設して、その代表者となる。

モロゾフ製菓のほうも日本人の手で現在なお営業中であるが、これはすでにモロゾフ家とは関係がない。世間ではよくまちがえているが、現にモロゾフ氏が経営しているのは、「コスモポリタン製菓」という会社である。場所は生田警察署と電車通りをはさんでむかいあったところ、ダイエー旧店のむかいである。同じビルのなかに喫茶室と工場がある。

「神戸について、若いころなにか思い出は？」

この質問にたいしては、モロゾフ氏の答えは失礼ながら、ありきたりのものだった。鉄道が高架になったころの話、街が埃っぽかった。人力車が活躍していた……。

私はひそかに思った。——モロゾフ氏の青春は、チョコレートのなかにあったのだろうか、と。話はほとんどチ

ョコレートのことだった。現在「コスモポリタン」で作っているチョコレート、キャンディ、ゼリーのたぐいは百数十種に及ぶ。チョコレートだけでも、ずいぶん種類が多い。リストを見せてもらうと、そのなかで、

インビリアル (Russian double Eagle)

アリストクラート (Aristocrat)

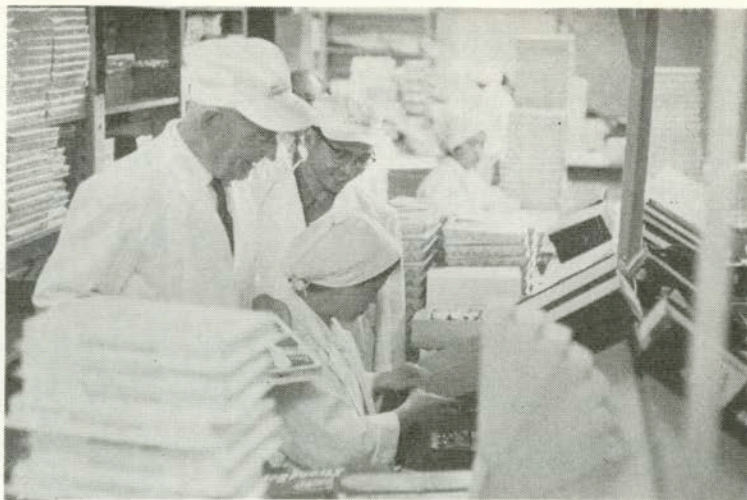
は、四月から九月まで製造致しておりません、という註がついていた。

この一事でもわかるが、じつに良心的な製造法を守っている。そもそも、チョコレートというものは、口の中にいれると、舌のうえでトロリととけるのが生命である。熱によわい品を夏季に造るなど、もつてのほかである。だから、コスモポリタンでは、高級チョコレートは四月から九月まで造らないのである。

あとで、支配人の原田氏の案内で、工場を見学させていた。チョコレートの液を握る機械があったが札がかかっていて、十一月九日という日づけが記されていた。当日は十一月十八日だった。十日間、昼夜休みなくその機械はチョコレート液を攪拌しているのだ。ふうのマス・プロ製法だったら、こんな悠長なことはするまい。二三日かきませると、すぐに使ってしまうだろう、この事業をはじめられたモロゾフ氏のお父さんは、さしずめ日本におけるチョコレートの元祖といえる。ことし八十三才、かくしゃくとして大池の別邸で自適しておられる。その息子は、すでに「チョコレートの鬼」となっており、りっぱに仕事を継いでいるのだ。

その二世、ヴァレンタイン・F・モロゾフ氏は五十を越えたばかりの働きざかりである。さきほど、チョコレートのなかに青春を埋めたのではないかと、勝手に想像をしたが、これはあくまで筆者の失礼な想像にすぎない。魅力ある夫人のオルガ・モロゾフさんにお会いしてから、そんな想像は訂正の必要があると感じた。

「結婚ですか？ 家内はハルビンから迎えたのです。……そうですね……見合いみたいなので……」



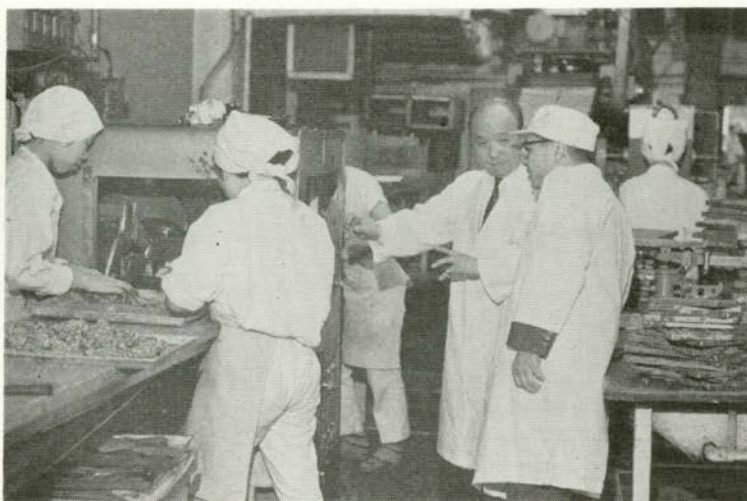
・コスモポリタンの工場で説明をきく中央陳さん 左はタラセンコ老人

モロゾフ氏は、チョコレートの話をするときとはうってかわって、言葉を濁された。

——モロゾフさんだって、やっぱりチョコレートばかりを相手にしていたのでなく、ロマンスもあったにちがいない。

そう考えて、筆者は妙に安心した。

お二人のあいだの男の子は、須磨のマリスト・ブラザーズ学院を卒業して、アメリカ留学中である。この三世モロゾフ少年もかわった子とみえて、むかしの生田警察署の道場に通って、剣道初段の免状をもらっている。パークレイ大学入学のため渡米する折、剣道の防具や竹刀も忘れずにトランクにつめこんだ。あちらでも、日系市



・陳さんにチョコレートの製法を説明される原田さん

民の剣道道場がところどころにあるそうだ。

モロゾフ夫人のお父さんのタラセンコ老人は、数年まえ大連から香港経由で娘さんのところへやってきた。隠居なんかするものかと、コスモポリタン製菓の包装部門で働いている。八十三才である。きけば六十年ほどまえ日露戦争で捕虜となって大阪の堺にきたことがあるという。

ハーラシヨ!

と大へんな元氣である。

話はまたチョコレートにもどる。

コスモポリタンのチョコレート・ボックスは、あくまで帝政ロシア風を墨守しているかにみえる。が、その味

はかなりアレンチされているようだ。厳密な意味でロシヤ風でないのは、日本の中華料理が、日本人の口にあわせて純粹の中華料理といえないのとおなじであろう。

モロゾフ氏はなんども欧米をまわったが、それもいわばチョコレート行脚である。世界の人びとの味覚、いろんな国の製品を研究するのだ。日本では味覚の嗜好はかなりアメリカナイズされているが、それでも和風をとど



・外人客の多い店頭でいつも接待されるモロゾフ夫人

め、欧風も加味されている。

世界を股にかけたチョコレート行脚でえたセンスをもつて、モロゾフ氏は一体なにをめざしているのだろうか？日本人の舌にアレンジされたロシヤ・チョコレートなのか？いや、そんな単純なのが目標ではない。

社名が氏の意図を象徴している。——コスモポリタン

ノ世界的な味。氏はロシヤのチョコレート製法をベースとして、それをおしひろげて、世界の味にしようとしているのである。

——貿易自由化なんて、ちっともこわくない。やっと自分の製品と競争できる相手があらわれて、たのしみだ。勇気リンリン、手ぐすねひいて氏は輸入品を待ちうけている。

ヨーロッパのチョコレートといえども、印度洋を越えてくる。そのためには、輸出むけの品には熱にたえる処理をしなければならぬ。それは、すでに舌のうえで溶けるチョコレートの本質をまけてるのであり、現地でつくられるコスモポリタン製のほうが、はるか有利な地位にあるわけだ。おそれるに足りない。おそろしいのは日本人の盲目的な舶来品崇拜心だけである。

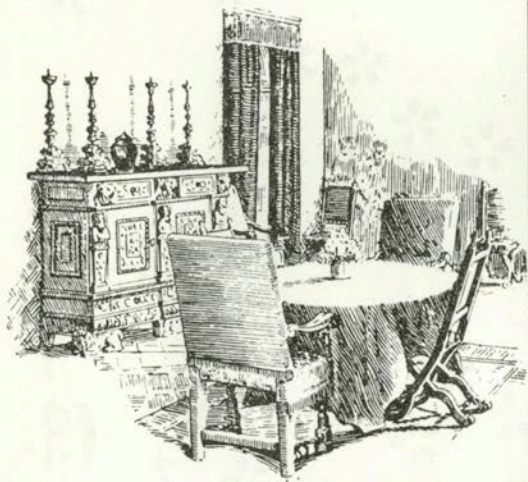
政治的な質問は場ちがいだから、さしひかえることにした。ただ氏はソ連のことを、「ロケットをつくるのは上手だが、麦をつくるのは下手」と、口数すくなく評した。むかしはヨーロッパの穀倉といわれたウクライナをひかえ、ロシヤから輸出したものののに、最近では逆に輸入している。それがお気に召さないと見うけた。

ともかく、チョコレートのことでお忙しい人である。大阪で人に会う約束があるそうなので、ゆっくりと話ができなかったのは残念だった。

モロゾフ氏の故郷がヴォルガのほとりであろうと、育った土地がアメリカであろうと、日本であろうと、それらとは関係なく、象徴的に言わせてもらえば、氏はチョコレートのなから生まれた人物なのである。そして、精神的にはコスモポリタンなのだ。

(作家)

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

大丸前 TEL { ③ 5 5 2 0
③ 1 2 9 0



きものと細貨

東京

神戸

銀座店	新橋店	東店	西店
TEL	TEL	TEL	TEL
(71)	(71)	③	③
7721	0807	0629	0836
階	代		(代)



おんがら屋

お歳暮に
神戸の味

丸煎餅

■ クリームベリタス



神戸三宮トア・ロード
本店 ③ 1 番 2 番 3 番
南店 ③ 1 6 1 6 番

● (地方送り海外発送承ります)
電話ご一報次第参上、商社マークせんべい



呉井保藏

みよこや

神戸 大丸 前
電話神戸(3)三三八八〇九番
大阪店 阪神百貨店三階
電話大阪(361)五五四八番
姫路店 やまとやしき百貨店三階
電話姫路(23)一一二二一番
衣裳部 三宮町三丁目柳筋
電話 ③ 五一六五番

神戸遊戯誌

4



神戸ゴルフ倶楽部創立60周年記念パーティーで
万才の音頭をとる南郷三郎氏

ゴルフ—現代版

④

青木重雄

今日のゴルフの流行ぶりは全くすばらしい。全国いたるところにゴルフ場が出現した、といっても言い過ぎではないほどで、現在各ゴルフクラブに入会してオフイシヤルなハンディキャップをもらっている人は全国で百万から二百万はいるといわれ、これ以外にレッスン場で練習しているサラリーマン族からバーの女給さんなどのいわゆる「ゴルフア―の卵」たちまで加えれば、四百万はいるだろうといわれている。関西方面だけでも、練習場もこめてゴルフ場と称するものは四百カ所も出来ているわけだが、これを戦前のゴルフ場十一カ所(千里山、淡輪、京都、山科、茨木、鳴尾、六甲、宝塚、広野、垂

水、山田)と比べると、全く昔日の感にたえないし、関西だけの戦前のゴルフ人口がわずかに三千人から五千人だったということも、まるで信じられぬような気がするほどである。四百カ所のうちから、兵庫県下にあるオフイシヤルなゴルフ場だけを選んでみても、六甲はじめ西宮、広野、小野、垂水、相生、加古川、鳴尾、宝塚、神戸カントリー(布引)、兵庫、神戸国際、スポニチ、読売、西宮高原、菊水、有馬、三田、花屋敷というほど多数の繁昌ぶりである。戦後、「株式の民主化」と同様に「ゴルフの民主化」ということが盛んに口にされたが、今日のゴルフの内情は第二として、これほどのゴルフ場

の数やゴルフ人口をみただけでも、ゴルフの民主化はすでに果たされたという感じが深い。

これらのゴルフ場のうちでとりわけ歴史と伝統の榮譽に輝くのは、六甲ゴルフ場の神戸ゴルフ倶楽部（灘区高羽一ヶ谷一の三六甲山頂、旧名神戸倶楽部）である。日本で最古の同ゴルフクラブでは、さる八月十七、八の両日創立六十年の記念式典につづいて記念ゲームを行なったが、現在の会員四百五十人のうち百八十名が参加して、午前八時から夕刻まであいにくの山上の霧雨をおかして腕を競い合い、最後に賞状を授与して大会の幕を閉じた。阪神の主だった財界人はもとより、名古屋以西から九州までの同クラブの理事長クラスのもとんどが参加するという隆盛さだった。六甲があまり手近過ぎるため、神戸人はとかく六甲の価値を軽く見すしがちだが、阪神から三十分で行ける避暑地であることと山上の美景のすばらしさが昔からの魅力であったことは当然で、戦前よく六甲ゴルフ場での日本人会員の中に洋行する人があると、同じ会員の西洋人から「こんなよいところがあるのに、あなたはわざわざ外国へ行くのか」と皮肉られたものだということが、今でも神戸ゴルフ倶楽部の古い会員仲間での一つの語り草となっているほどだ。世界で八番目の古いシニセを持つだけに、同クラブには昔のゴルフの「純粹さ」を重んずる気風が今も残っていて、入会もよそのクラブほど楽ではないようだ。

神戸ゴルフ倶楽部の顔ぶれを拾ってみても、大元老の南郷三郎氏（八十六歳、五十年以上のゴルフ歴、特別会員、ハンデイ一六）以下敬称略、ハンデイは以下Hははじめ、室谷藤七（八十二歳、室谷工業KK、同倶楽部理事長、H一六）高畑誠一（七十六歳、日商KK、同倶楽部キャプテン）広岡久右衛門（大同生命保険相互KK、H一九）などの長老格がまず目につくが、上記の六界三十年記念祭に集まった時も、四人の長老会員南郷、加藤（七十四歳、国際映画KK、H一五）功力重次（七十四歳、H一一）町永三郎（七十三歳、神戸製鋼所、H二四）

の年齢の合計がなんと三百七歳だったことは、およそスポーツの世界では前代未聞の出来事だった。家族づれの会員が多いのも同クラブの特色である。たとえば、原吉平（大日本紡績KK）野口忠二郎（阪神電鉄）松岡辰郎（松岡汽船KK）西村雅貫（甲南カメラ）鈴木治雄（日輪ゴムKK）岡橋泰一郎（岡橋KK）鳥井道夫（寿屋）佐治敬三（同上）らの各夫妻の顔がよく見られる。ゴルフの「三代目」も少くない。岡橋泰一郎、松岡道夫、功、広海浩三、岡崎晴彦（神戸銀行）らの面々だが、いずれも彼らの方が一代目や二代目より強い。戦前よりも万事スピードイーな世の中で育った強味ともいえるだろうか。他の会員では、岡崎忠（神銀）小曾根真造（阪神内燃機工業）宮崎辰雄（神戸市助役）西脇親（神銀）末正久左衛門、榎並正一（阪東調帯）八馬推（八馬汽船）服部元三（川崎汽船）弘世現（日本生命保険相互）乾豊彦（乾汽船）嘉納正治（白鶴酒造）小林芳夫（神銀）野沢幸三郎（野沢セメント）高尾徹也（灘珪瑯）鷹羽季三（大正運輸）樽本久（樽本汽船）手塚敏雄（川崎重工）山口泰弘（川崎電機）など多士齊々。同倶楽部で外人中最古参のW・ラッキーさんはじめ（英人）スーザー、キルキ（ポルトガル）ブルゲンマン（西ドイツ）クレーン各氏など外人会員が六十人もいて、日本一を誇っているのも同倶楽部の特色だ。とかく勝負にこだわりがちな日本人と違って、外人は悠々とゲームを楽しむ方だから、大いに学ぶ点があるろう。団体加入が多くなったことも近ごろの傾向だが、同倶楽部には技術優秀の「甲南会」（甲南大学）や、神戸医師会、同弁護士会、川崎汽船の「左右会」らがよく開催されている。会員のすべてが、同ゴルフ場のサマー・コースをまるで自分の庭のように愛していることもここ独特の伝統的なムードとしてつけ加えておく必要があろう。

みんなに愛される銘菓

成駒屋好み

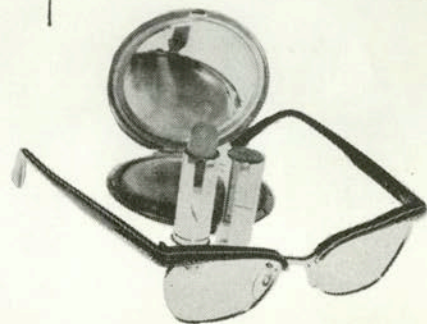
鴈治郎館



扇雀おこし

本社 神戸湊川神社電停前 電話④1242
営業所工場 生田区仲町通4丁目 電話④2663

第三の美容



EYEGLASSES CRATE THE THIRD BEAUTY

ハイファッション のめがね

神戸眼鏡院

元町3・電③3112-3・③91443
③0551 (貿易部)

〈神戸クーポン歓迎〉



美しさを創る…

アスター・ニュートン

トア・ロード③1818

ヨーロッパからのプレゼント



婦人帽子

マキシフ

神戸・トアロード 東京・銀座3-2
TEL③6711-3 TEL(535) 5041

＊クリスマスとお正月の

ドレス・プラン

福 富 芳 美



華やかなクリスマスにつづいて、年の始めを祝うお正月、一年中でいち番晴着の必要な季節です。

最近はそのよさの再認識から、和服を晴着にする方が多くなりましたが、祝日でもあり、ホリデイでもあるたのしい「集い」のために、お人形のような振袖姿とは別に、きゆうくつさのない楽しく遊べる洋服が、二番目の晴着として選ばれるようです。

パーティードレスというと、日本では、普段に着ない特別なデザインをしなければ気がすまない、という考え方が多いようです。

しかしこの頃のカクテルドレスは、イブニングドレスでさえ、そんな大げさな装飾的デザインからとくにぬけ出して、形はシンプルに、その中どこか豪華な感じを自然に出す、というシルエツトになって来ています。

例えば、それを布地で表現するなら、ベルベットや、アングラのやわらかいウール、絹や化繊の変り織、オーガンジーなど、毎日着る服とちがって、美しさ、はなやかさを主体とした素材が、よそゆきの感じができます。

色も、普段より開放された奇麗な色を、例えば、真っ白を真冬に着るとノールだし、黒や濃紺などはシックな品のよさがあります。デザインも、特に変わったものよりもツーピースをつくるならいつもの固いテラーカラーはやめて、ヘチマカラーを流れる様なラインにしてみたり、流行のキモノスリーブやラグランスリーブを、袖

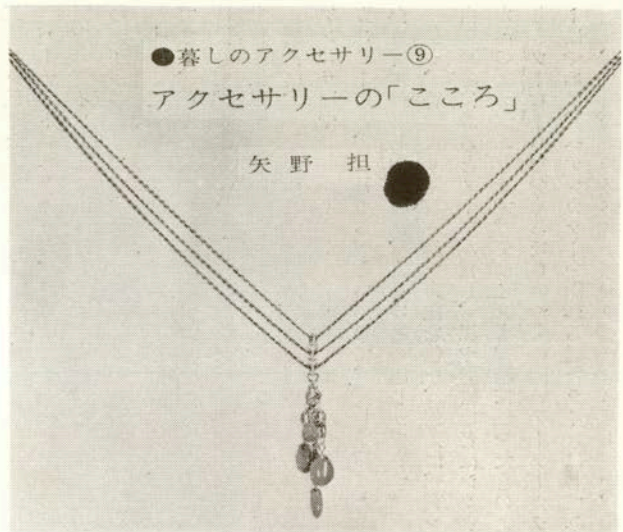
付にとりいれるとしゃれた感じがします。また衿なしのツーピースドレスやワンピースドレスは、普段より少し大胆にネックのあきを大きくくったり、暖房が完全になつてきたのですからくみあわせの形式にした袖なしのドレスに、上着はちよつと軽く袖のあるものを羽織ると若々しい感じ。逆に今年の新しいシルエツトの一つである手首までの長さでピタリと腕に添ったタイトな袖付のドレスも、クラシックでいいものです。ほんのちよつとした柔らかさをデザインの何処かでアクセントつけると、よそゆきの効果は充分に出できます。特別に嗜着なんだからと、平常ちよつとも着たことのないような変わった感じのものや、着こなし方に気を使うデザインをとり入れると、決してあなたをエレガンスには見せないで、返って「コッケイ」に見せてしまいます。

アクセサリをうまく使うことも、ドレスを豪華に見せる晴着の気こなしのポイントです。まず手袋は寒いからはくというのではなく、ドレスに合わせて整えましょう。白っぽいページュの手袋がたいの服にマッチするので便利ですし、ヒジより少し短い目の長さは、礼装の感じもして、あなたの装いをひきしめめます。

ネックレス・ブローチなど、アクセサリのつけ方はみなさんも、よくご存知でちか頃は皆が上手になりました。この上、注意したいことは「つけすぎ」のないように、ことに若い人は、デザインによってはむしろ、つけない方が清潔な美しさができるものです。

室内は暖たかいのですから、出来ればムダな下着はつけないように。真夏と同じ下着で寒さは上に着重ねて行くほうが本格のおしゃれです。

こまやかなアドバイスをしましたが、最後にお出かけ前、ちよつと鏡に写して見ましょう。あなたの髪形、お化粧、ドレスとみんなが統一された美しさだったなら「よそゆき」姿も立派なものです。神戸っ子らしい、おしゃれなプランで1963年にアディューしまししょう。



さてアクセサリを使用する場合、もしこれから求める場合、着るものの色、型に制約される事は当然ですが中にはアクセサリに合わせてコスチュームを考える程愛着のあるものを見つけ出したいものです。

最近、着物の柄が非常にモダンになりそれに付随したアクセサリの方がどうもついてゆけなくなっている傾向が見られます。

そこで帯止め一つにしても昔からある型を、そのままモダンなものに持って来てもうつらないのは当然なのです。まして洋服の柄を着物にそのまま持って来る場合もしばしばあるようです。

先日、私を訪ねて見えたある女性は、非常にモダンな着物を着ていらっしゃいましたが、この着物に合った帯止めを作って欲しいと相談をもちかけられました。こと着物に関したアクセサリには私はほとんど自信を持ってなかったのですが、偶然二、三のカメオその他のブローチが置いてあったのでその中の一つをその方の帯につけてみたところ非常に新鮮な感じで喜ばれました。こういう場合気をつけねばならないと感じた事は、あくまで柄は同一のもので、型は洋服と異っているもので光ったオパールストーン、このようなブローチは出来るだけ避けた方が賢明だということです。しぶい石を使つたもの、カメオなどの程度のものが帯止めには最適と思います。イタリヤ製のカメオも出廻つていて、求めやすい値段になっていきますので、洋服にも和服にもせいぜい使い道をご自分なりにこなして残り少ない63年を楽しく送りたいものです。

*今月のアクセサリ

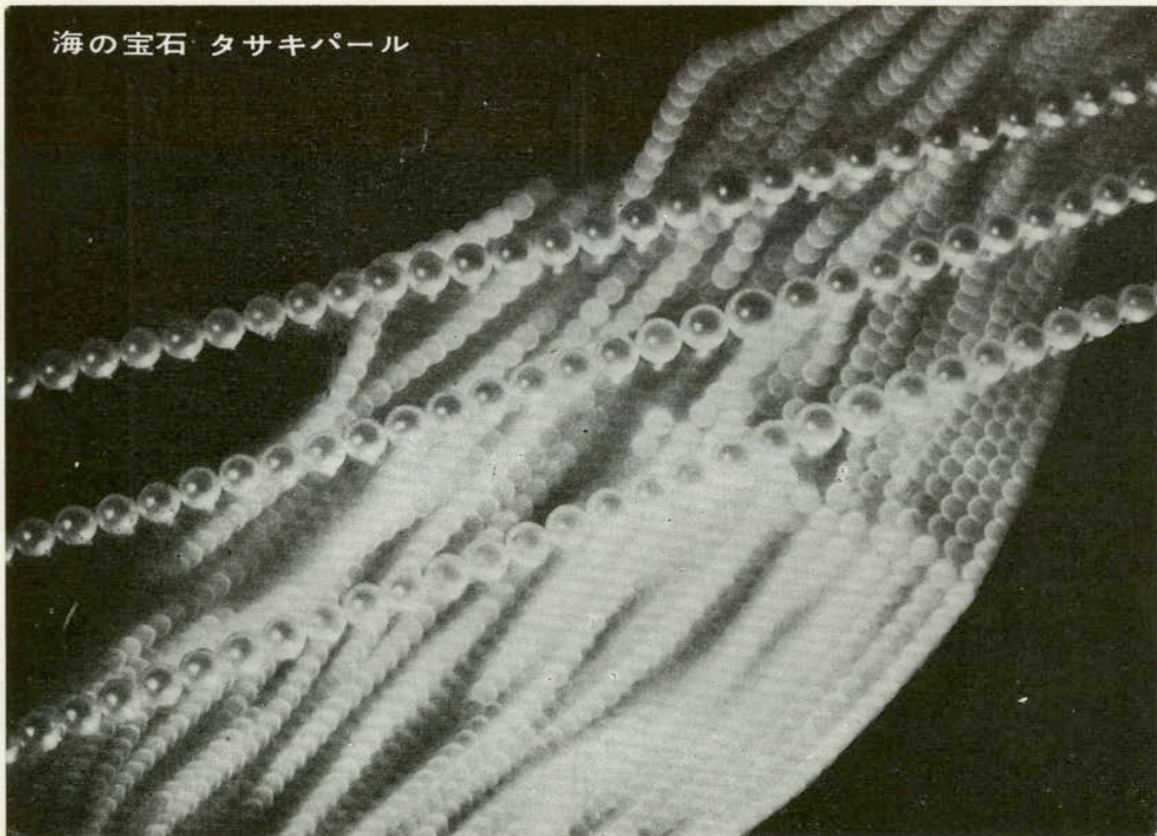
こんなものをデザインしてみました。これはクサリに刺しゅう糸をあみ込んだもので、金属性のもつ冷めたさに、糸のやわらかさを添え、暖たかさを感ずる様に試みました。ちょっとしたアイデアでアクセサリの持つムードはいろいろに変化します。

12月に入ると色々な意味を持った、楽しい集いのクリスマスパーティーなど、アクセサリにとっては忙しいシーズンです。

——そもそも、装身具といえは、始まりはそこに花があった、非常に可愛らしい、そしてきれいな花、その中の一輪を摘んで髪に飾った。そこに湖があった、そして湖面に映つた自分の姿にうっとりとし初めて髪に飾つた花と自分とのつながりを知ることが出来た、又、そこに石が落ちていた、その石の輝やき、しぶさに愛着を感じそれを身に飾つた——昔の人は単純な中に非常に感覚的なそしてその時代、時代の流れにあった装いを身に付けていたことはいまでもなく、髪型、髪飾り、どれをとっても——そこには階級的な制約はありましたが——いつの代にも女性は美しさを求めつつ現代につながり明日からもそれを求めてゆく事でしょう。

(ガラス工芸とくらしのデザイナー)

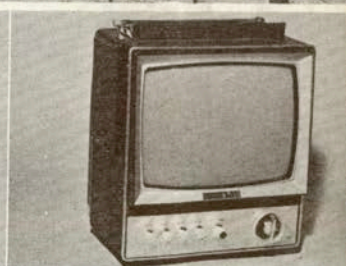
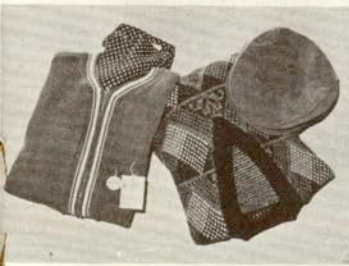
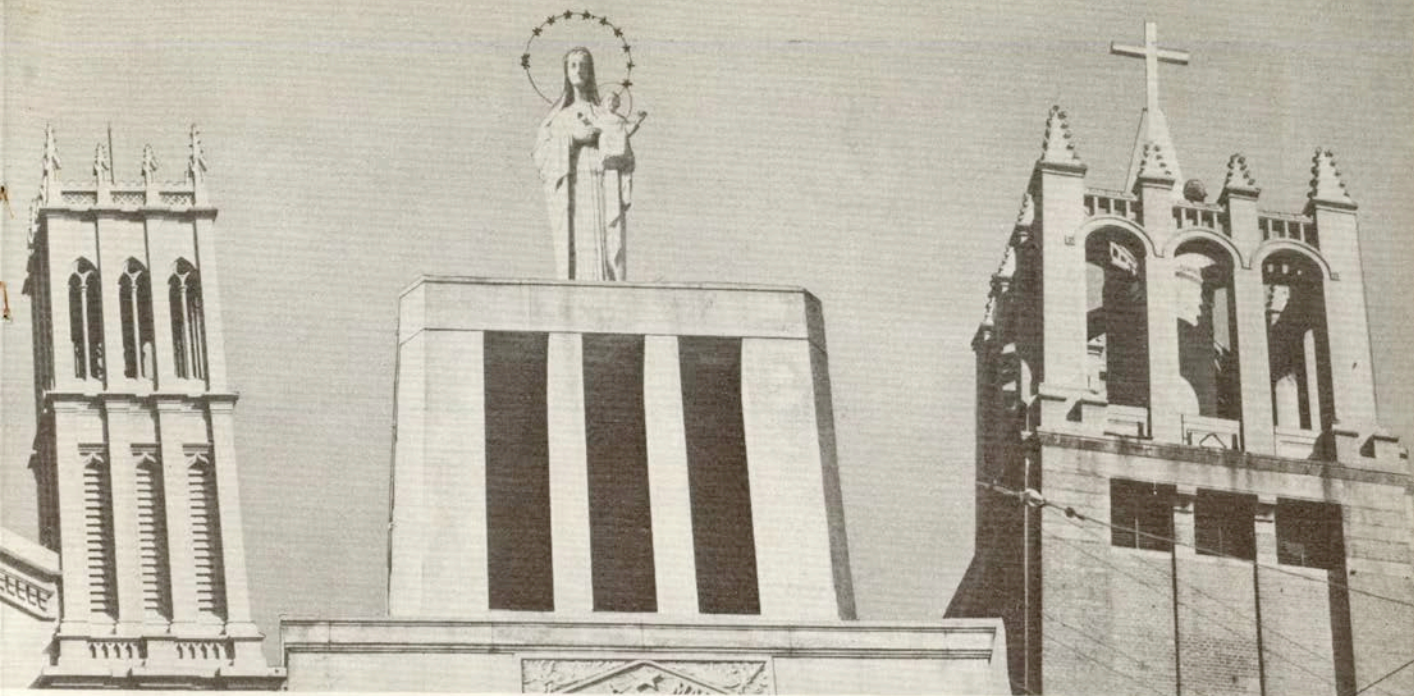
海の宝石 タサキパール



銀座—神戸—長崎を結ぶ高級真珠専門店

39 |
田崎真珠店
|

神戸店 三宮駅前・秀品店
銀座店 東京・銀座西四丁目
ヒルトン店 東京ヒルトンホテル



紳士洋品の店

サカエ

元町2 ㊤7885

美しさを創る洋装店

装苑

三宮店・三宮町1 ㊤2038
六甲店・灘将軍通 ㊤1717

洋品雑貨

リリアン

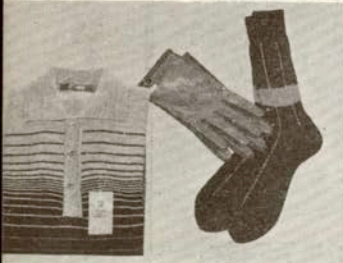
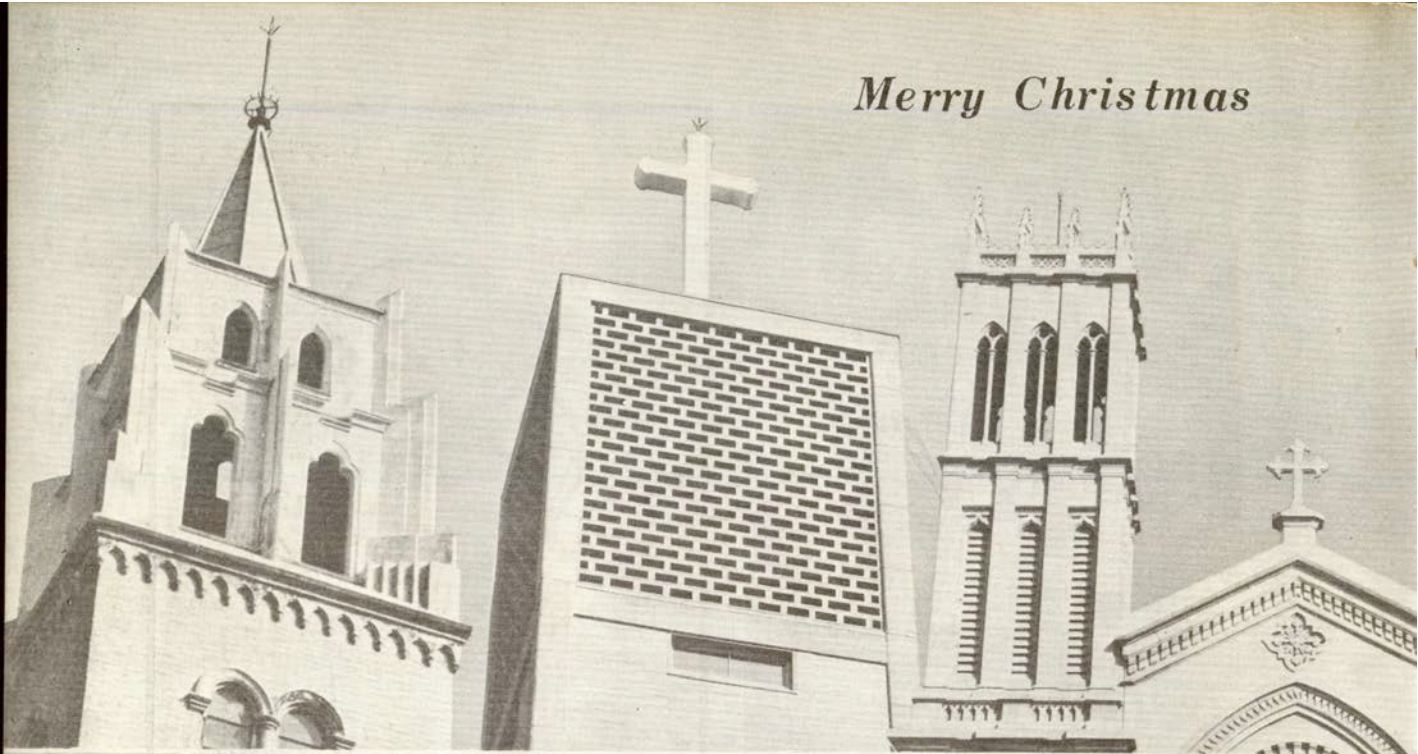
センター街 ㊤3251・3567

あらゆる電器製品の店

元町電機

元町6 ㊤3701~5

Merry Christmas



男子洋品の店

フナキヤ

元町3 ③3617

FASHION ACCESSORY

AKIRA

Sannomiya Center-Gai
KOBE

紳士シャツ

大和屋のシャツ

三宮センター街 ③6950

舶来雑貨とステッキの店

ステッキオカダ

三宮生田筋 ③4665



紳士服飾・婦人服飾

セリザワ

紳士服飾・大丸前(3)3900
 婦人服飾・大丸前(3)1695
 センター街(3)6114
 姫路やまとやしき231221

クリスマス、お正月に美しいヘアスタイル



マキシン美容室 神戸店

Maxine Beauty Shop

神戸・三宮神社前三上ビル3階 電(3)4917
 西寺尾店(文化センター内)・横浜元町店(4)0312
 軽井沢店 2771・博多大丸美容室・香港大丸美容室